

令和8年度病害虫発生予察警報第1号

令和8年10月1日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）（図1）
対象作物：かんきつ、落葉果樹（かき、キウイフルーツ等）

1 警報の内容

- （1）発生が予想される地域： 県内全域
- （2）発生が予想される時期： 10月
- （3）発生程度： 多
- （4）防除時期： 10月

2 警報発表の根拠

- （1）令和8年8月26日に「[令和8年度注意報第3号（かんきつ、落葉果樹 果樹カメムシ類）](#)」を発表し、生産現場への注意喚起を呼びかけているところだが、9月中旬以降に本虫の発生がさらに急増している。
- （2）県内4か所の予察灯における9月1日～20日の合計誘殺数の平均は、19,512頭（平年960頭、平年比20.3倍）と平年より多かった（図2）。これらの誘殺状況は、本虫が異常多発した令和6年（2024年）を上回る水準となっている。また、県内6か所のフェロモントラップにおける9月1日～20日の合計誘殺数の平均は、269頭（平年107頭、平年比2.5倍）と平年より多く（図3）、果樹園への飛来リスクが高まっている。
- （3）9月上中旬のヒノキ球果における本虫の平均寄生数/10結果枝は、37.5頭（平年6.1頭、平年比6.1倍）と平年より多かった（9月としては平成8年（1996年）以降で過去最多）（図4）。今後も山林のヒノキで大量に増殖した本虫が、果樹園等に大量飛来するとともに果実を加害するおそれがある（図1）。
- （4）9月上中旬のヒノキ球果における本虫の平均吸汁痕数/球果は21.1（平年16.2）と平年より多かった（データ略）。なお、本県ではヒノキ球果における吸汁痕数が20に近づくと、本虫がヒノキから離脱し、餌を求めて果樹園に飛来するとされている。9月上中旬時点では20地点のうち6割で平均吸汁痕数が20を超えており（西部・中部が多い）、既にヒノキからの離脱が始まっていると考えられる。
- （5）病害虫防除員からの情報によると、本虫による果樹園への飛来は西部を中心として9月上旬頃から一部のほ場で認められ始め、9月中旬以降は西部・中部での大量飛来も確認されている。
- （6）名古屋地方気象台による1か月予報（令和8年9月24日発表）では気温は平年より高い見込みのため、本虫の発生を助長する。

3 防除方法

- （1）9月下旬時点では西部を中心として果樹園での大量飛来が確認されている。飛来が確認されていないほ場でも、今後の飛来に最大限の警戒を払う。
- （2）静岡県病害虫防除所ホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ球果の着果量や球果における寄生数、球果での吸汁痕数、果樹園への秋季以降の飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。
- （3）これら最新情報を確認し、本虫の飛来が予想される場合には、ほ場の見回りをこまめに行う。ほ場で少数でも本虫の発生を確認したら、本虫が集合フェロモンを放出し大量飛来を招く前に、直ちに薬剤防除を行う。また、周辺ほ場への大量飛来がみられた場合、飛来前の予防的な薬剤散布を心掛ける。なお、本虫の移動範囲は広いと、地域での一斉防除が効果的である。また、ヒノキ・スギ林の

隣接地域（特に中山間地）や台風・暴風雨後の園地では、急激に発生が増加する場合があるので注意する。

- (4) 薬剤防除については、[「静岡県農業安全使用指針・農作物病虫害防除基準」](#)を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。
- (5) 防除対策については、[「令和8年度注意報第3号（かんきつ、落葉果樹 果樹カメムシ類）」](#)も参照する。
- (6) 不明な点については、病虫害防除所、農林技術研究所果樹研究センター、農林事務所等の指導機関に問い合わせる。



図1 果樹カメムシ類とその被害果実

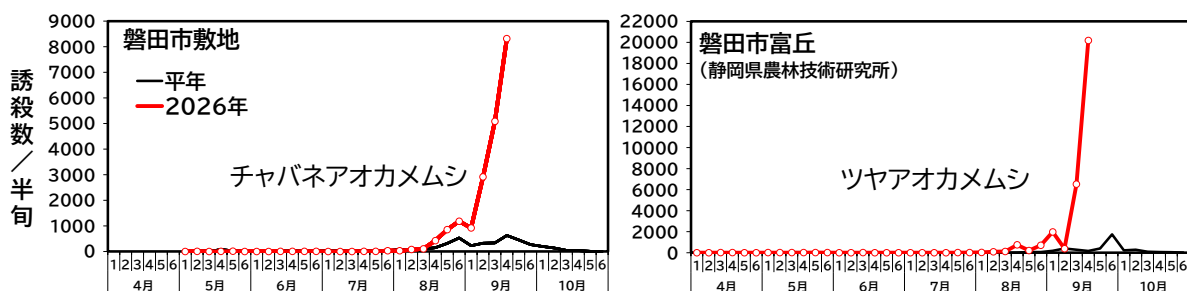


図2 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況（県内4か所のうち抜粋）

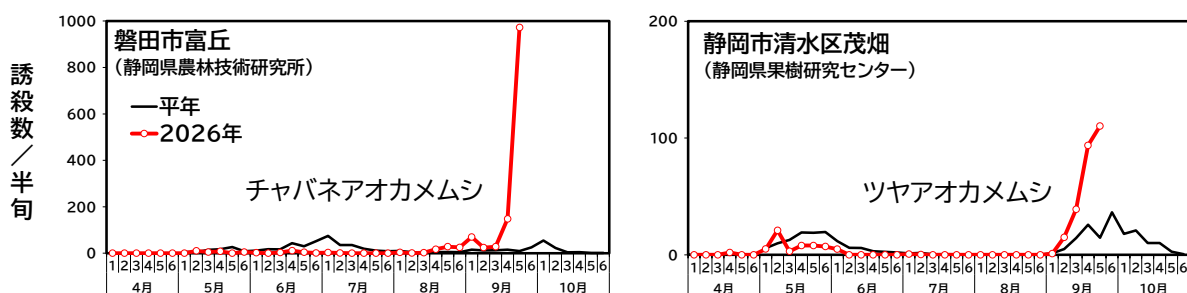


図3 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺状況（県内6か所のうち抜粋）

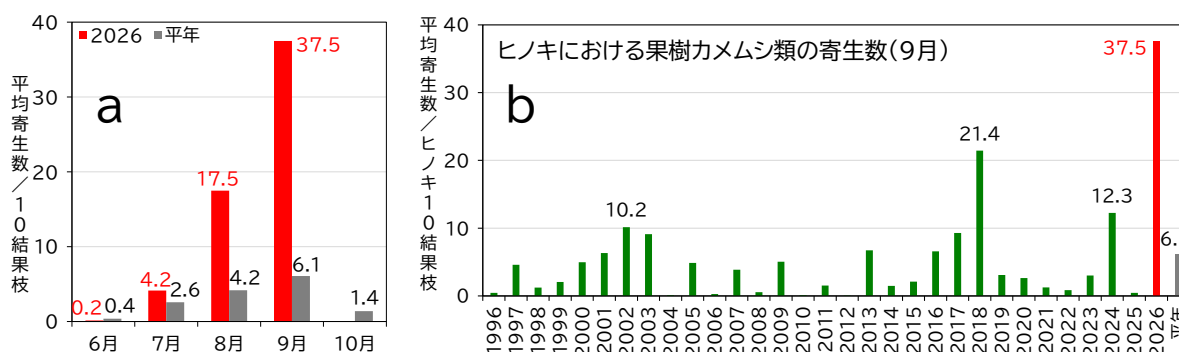


図4 ヒノキ球果における果樹カメムシ類の寄生数(a: 2026年 b: 年次別(9月))

【問合せ先】 静岡県病害虫防除所

〒438-0803 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

ホームページ <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

